

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007 ～ 2009
 課題番号：19720027
 研究課題名（和文） 18世紀フランスの絵画と挿絵における演劇・舞踊図像の実証的研究
 研究課題名（英文） Iconographical Study of Theatre and Dance in French Paintings and Book Illustrations in the Eighteenth Century.
 研究代表者
 安室 可奈子（AZUCHI KANAKO）
 日本大学・芸術学部・研究員
 研究者番号：10419749

研究成果の概要（和文）：研究期間前半の図像、文献の基礎調査を通じて、C.A.コワペルの絵画作品が同時代の演劇と深い関わりを持つことが明らかになった。後半はこの個別研究に従事した。当該図像について、モリエール、ラ・フォンテーヌ、アプレイウスのテキストの比較を行い特にコワペルがモリエールに文学的着想を得ていること、視覚的伝統における位置づけとしても18世紀前半に特徴的な図像であることを明らかにし、口頭発表および論文として発表した。平成22年度中に当該作品に関して新知見を含む総合的成果を発表する予定である。

研究成果の概要（英文）：Through the first half of research activities, in other words, the basic studies of literature and Iconography, the student clarified that the works of C.-A. Coypel have a close relationship to contemporary drama. Therefore the student worked on the individual study of his paintings in the second half. The student read a paper at the meeting of European and American Cultural Society and published it. The presenter showed clearly that Coypel's painting <<Psyche abandoned>> got his source from Moliere's script and the iconography is unique in the early 18th century. In 2010, the student is planning to announce another paper as conclusion.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
19年度	700,000	0	700,000
20年度	500,000	150,000	650,000
21年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	300,000	2,000,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：18世紀，フランス，絵画，演劇図像，モリエール，ラ・フォンテーヌ

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、それまで 18 世紀フランスにおける神話画の成立過程を、主に出版史との関わりから総合的に研究してきた。その結果、神話や古典文学を題材とした挿絵本等の書物において、同時代の絵画作品の文学的・図像的着想源が顕著にみとめられることが明らかになってきた。本研究では、美術史と出版史が交わる研究領域に演劇・舞踊等の舞台芸術史の視点をさらにクロスオーバーさせ、より多角的な美術研究を確立することを全体の構想とした。

2. 研究の目的

本研究に関する国内外の動向について、ここでは、プシュケ神話を具体例に、a. 図像学、b. 出版史、c. 演劇史の各分野における主要研究を紹介する。a. 近世フランスの絵画や挿絵、装飾芸術におけるプシュケ神話図像の研究としては、PETIT-DELCHET (M.), "L'illustration décorative du Mythe de Psyché au XVIIe et XVIII e siècles", *B.H.A.F.*, F. de Nobele, 1911, pp.137-148. b. 出版史的研究としては、OSBORNE(C.-M.), *Pierre Didot the Elder and French book Illustration 1789-1822*, New York, Garland, 1985 c. 演劇史研究の分野では、BAPST(G.), "Le théâtre à la cour de Louis XIV, à propos de la représentation de Psyché", *Revue des cours et conférences*, III, 1894-95, p.151-160 等が主に挙げられる。これらの研究はいずれも各分野において優れた成果を発揮している。しかしながら、絵画と舞台芸術、挿絵本出版史の 3 つの視点から総合的かつ網羅的に行われた研究とは言い難い。そこで研究代表者はこれら 3 つの側面を交差させることにより、特に美術史研究としては 18 世紀ではほぼ手つかずであったといえる演劇台本の挿絵を図像伝統に位置付けることで、より広い文化史的枠組みの中で絵画を解釈することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 海外調査：2007 年と 2009 年の 2 度にわたり、パリ国立図書館、ロンドン大学ウォーバーグ研究所など図書館、研究機関が所蔵する同時代資料を中心とした文献および画像資料の収集を行った。また諸美術館で作品の実見、撮影を行った。

(2) 国内調査：東京、神戸、名古屋等の大学図書館、研究機関、美術館で文献・画像資料の調査・収集。また関連作品の実見を行った。

(3) 上記(1)(2)の調査を踏まえ、収集資料の分類、整理を行った。その基礎調査の過程で、特に 18 世紀前半期のフランス絵画作品が、モリエールをはじめとした 17 世紀古典劇の台本と深い関わりを持っていることを再確認した。

(4) 研究機関の後半では、C.A.コワペルの作品とモリエールの舞台台本に焦点を絞って個別研究を行った。(1)(2)の諸機関で、作品に関わる資料や画像資料を収集し、その調査結果を踏まえて口頭発表、論文刊行を行った。

4. 研究成果

期間前半の基礎調査を通じて、C.A.コワペルの絵画作品が同時代の演劇と深い関わりを持つことが明らかになった。後半はこの個別研究に従事した。特に「捨てられたプシュケ」図像に着目し、モリエール、ラ・フォンテーヌ、アプレイウスの該当部分のテキスト比較を行った。その結果、コワペルがモリエールの舞台台本に文学的着想を得ていることがわかった。一方で、この図像を分類・比較することによって視覚的伝統においても 18 世紀前半に特異な位置づけをもつ作品であることを明らかにした。これらの成果を学会での口頭発表および研究論文として発表した。平成 22 年度中に当該作品の図像的着想源について、新知見を含む成果を発表する予定である。

またこの研究過程で、コワペルと同時代のプシュケの神話作品について、挿絵本出版史とのかかわりにおいて重要な事実を発見し、学会での口頭発表、論文の刊行を行った。当該課題については、本研究期間中には着手できなかったが、18 世紀に上演されたオウィディウス神話をテーマとする演劇とのかかわりで、継続して研究を進める予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

安室可奈子

「1732 年版オウィディウス挿絵本とアムステルダム」の芸術家たち」

『愛国学園大学 人間文化研究紀要』第 12 号

2010 年

55-67 頁

安室可奈子

「捨てられたプシュケ：18 世紀フランスにおける図像伝統と文学的背景」

『愛国学園大学人間文化研究紀要』第11号
2009年
61-77頁

安室可奈子
「初期女舞図像の系譜」
『ORCNANA報告書「研究発表会・シンポジウム2006/2007」』
2007年8月31日
93-109頁

安室可奈子
「フランソワ・ブーシェ《水浴のディアナ》：
その作品名の変遷について」
『愛国学園大学人間文化研究紀要』第9号
2007年
27-32頁

〔学会発表〕(計3件)

安室可奈子
「『捨てられたプシュケ』- 18世紀フランス
絵画とラ・フォンテーヌ、モリエール」
欧米言語文化学会第1回年次大会
2009年12月13日
日本大学文理学部

安室可奈子
「フランソワ・ブーシェ《ディアナの水浴》
1732年版オウィディウス挿絵本と投影さ
れた恋のエピソード」
第62回美術史学会全国大会
2009年5月24日
京都大学

安室可奈子
「18世紀フランスにおけるオウィディウス
挿絵本の刊行状況とディアナ図像」
日仏美術学会シンポジウム「オウィディウ
ス・挿絵・アーカイブ・・・デジタル時代の
図像学を考える」
2007年9月29日
東京日仏会館

〔その他〕

ホームページ等
<http://homepage3.nifty.com/kohitujibon/studies.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安室 可奈子 (AZUCHI KANAKO)
日本大学・芸術学部・研究員
研究者番号：10419749